

広域連合だより

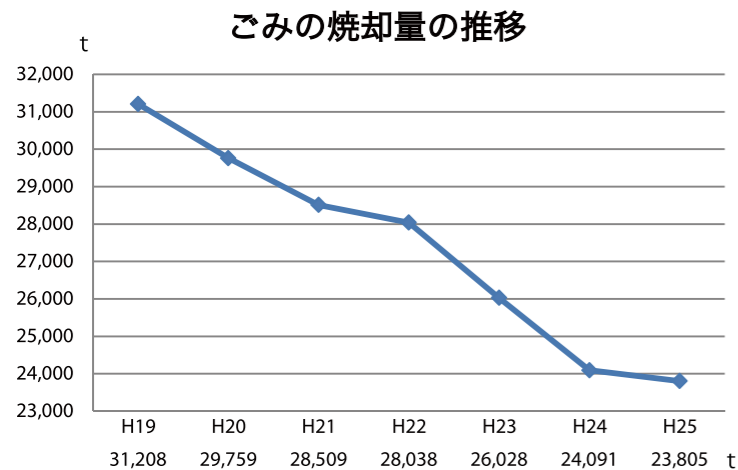
構成団体 日向市 門川町 美郷町 諸塚村 椎葉村

【第28号】

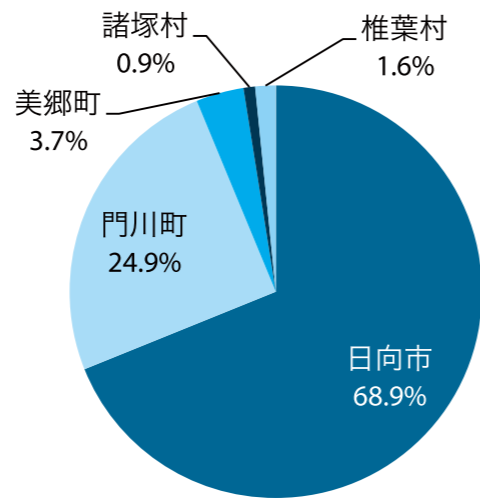
平成26年9月発行
日向東臼杵広域連合
〒883-0034
日向市大字富高2192
TEL(0982)53-3401
FAX(0982)52-7889

平成25年度のごみ焼却量を報告します。

平成25年度に清掃センターで燃やしたごみは23,805tでした。



焼却量の割合は円グラフのとおり日向市と門川町で全体の93.8%を占めています。



H25 ごみ焼却量市町村ごとの割合

市町村ごとのごみ焼却量は全体で23,805tで、昨年度と比較し286t減少しました。平成19年度に対して23.7%減となっています。

今年度から門川町がプラスチック製容器包装の分別を始めました。

今後もより一層の減量化が期待できます。

問

不法投棄の現状、実態と対策は

不法投棄に関しては、各市町村の責務において、監視、啓発等の対策を行っている。

問

ごみ処理体制統一化の観点から、構成市町村の分別品目を、日向市の内容に統一するための協議を昨年度から進めており、プラスチック製容器包装の分別、資源化については合意が得られたところである。本年4月から、門川町においてプラスチック製容器包装の分別回収を開始している。

ごみ減量化と資源化率の向上に向けた取り組みは

荻原紘一議員（日向市）の一般質問の一部を紹介いたします。

一般質問

荻原紘一議員（日向市）の一般質問の一部を紹介いたします。

工事請負契約の締結について

清掃センター長寿命化工事第3期の契約締結について審議しました。工事金額は1億9980万円です。この議案については原案通り可決されました。工事の内容等については次頁に掲載しています。

平成26年7月1日、第2回定例会が開催されました。提案された議案は1件でした。

広域連合議会だより

平成26年第2回定例会

特集 ごみ処理の現状と課題について学ぼう！

その7

日向入郷圏域のごみ処理の現状と課題について、シリーズでお伝えしています。今回は、日向市のごみ減量化対策について、取り組みを紹介します。

ごみの搬入量

日向市の平成25年度の広域連合清掃センターへの燃やせるごみ搬入量は、16,334トンでした。

5年前の平成20年度の搬入量22,290トンと比較し、5,956トン(約27%)の減となっています。

ここ数年、燃やせるごみの量は減少し続けています。この間、資源物分別の品目の拡大等もありましたが、なによりも市民のみなさんの日頃からの分別へのご理解とご協力の結果です。

資源化への取り組み

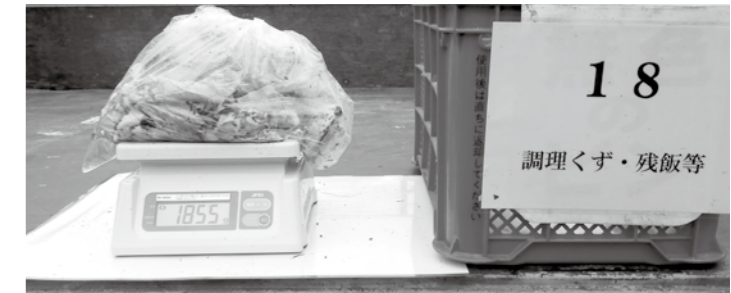
燃やせるごみの約半分を生ごみが占めていると言われ、日向市に限らず他の自治体においても生ごみをいかに減らすかが課題となっています。

地域のごみステーションに出されているごみを無作為に回収し、一般家庭から排出されるごみの種類と比率を調査する、「日向市家庭ごみ組成調査」(平成25年8月実施)では、一般家庭から排出されるごみの約50%が生ごみであることが分かりました。

この生ごみの中には、賞味期限が切れた等の理由で廃棄された「未開封食品」も含まれていますが、調理くずとして出された食品の残りや食べ残しが大半を占めており、そのほとんどは水切りのなされていないものでした。

生ごみは水切り、乾燥をさせることで約30%の減量化効

果があるとされています。また、水切りだけではなく生ごみの堆肥化も生ごみの減量化に有効的な手段であり、堆肥化したものは家庭菜園等に使える堆肥になるのでごみとして出す必要もなくなります。



家庭ごみ組成調査(生ごみ計量)

日向市では水切りを効果的に行える「生ごみカラット」や生ごみの堆肥化を家庭でできる「コンポスト容器」と「EM容器」を無料で貸し出しています。

コンポスト容器 EM容器 生ごみカラット



土に埋めて堆肥化 EMほかして堆肥化 生ごみを乾かして減量化

今後の取り組みについては、生ごみを少しでも減量できるように上記の生ごみ処理器や適正な処理方法の周知徹底をはかることで、さらなるごみの減量化を達成できるように努めていきます。

東郷霊苑について

東郷霊苑は供用開始から9年が経過しています。老朽化による火葬設備の機能低下を防ぐため、管理運営中期計画に基づき年次的に整備を行っており、昨年度は、火葬炉設備C系熱交換器取替工事及び火葬設備C系誘引排風機整備工事を行いました。

今後も、安定した火葬が行なえるよう施設の整備に努めてまいります。

平成25年度にいただいたご意見ご感想から

職員の接遇について

- ・接して下さる態度、言葉遣いが優しかった。
- ・職員の方々の対応が非常に良い。
- ・親切丁寧に接していただきました。
- ・夜、係の方がお帰りになる時、わざわざ「何かあったらこちらにご連絡下さい」と電話番号を記入したものをもちいていただき有り難く安心いたしました。

施設・環境について

- ・取骨までの待ち時間を休憩室でゆっくり過ごせるのが有り難いです。
- ・掃除が行き届いていて快適に過ごせました。

施設全体への要望

- ・広い施設で大変でしょうがこれからこの状態を守り続けていただきたいと思っています。
- ・毛布の貸し出しをお願いいたします。
- ・できればシャワー室があると助かると思います。



編集後記

清掃センターの煙突から出ているのは、煙ではなく、そのほとんどが水蒸気。広域連合に派遣されて初めて知った。ここでは、人間の手によって作り出されたごみを、自然にやさしく返そうとする人々の知恵と地道な努力の一端を垣間見ることができた。(K)

焼却炉内の改良で4倍長持ち！～

平成26年度清掃センター長寿命化工事（第3期）
ストーカ及びサイドウォールプレート改良工事（1・2号炉内）

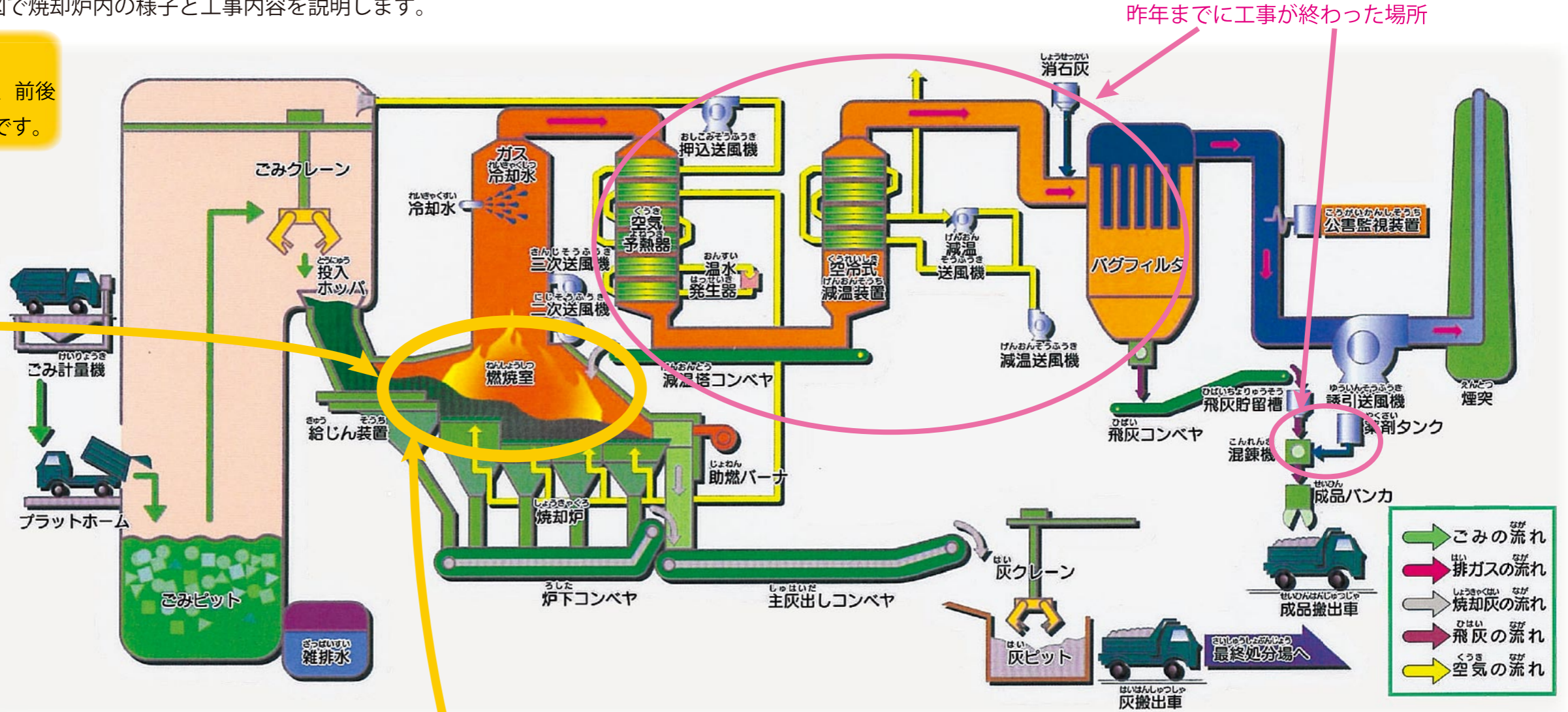
今年度行う工事は焼却炉の内部です。炉内のストーカの寿命を延ばすために、ストーカの一部を空冷式から水冷式に改良する工事を行います。サイドウォールプレート改良工事も同時に行います。下の図で焼却炉内の様子と工事内容を説明します。

※ストーカってなに？

ストーカとはごみを燃えやすくするため、前後に動いてごみを移動、かく拌させるものです。



燃焼室内部を見た写真です。写真手前に落とされたごみを、奥へ送りこんでいきます。○の部分今回工事を行う場所です。



昨年までに工事が終わった場所

6月6日、清掃センターで防火訓練を行いました。



放水訓練中

ごみピット内で火災が発生したという想定で、ごみの処分に来られた方の避難誘導、放水訓練等を行いました。消防団に所属している職員も多く、放水訓練は手際よく行なわれました。清掃センターは火災を始め、有毒ガスの発生やごみピットへの転落等様々な事故が想定されます。事故は起きないことが一番ですが、常に「起こるかもしれない」という意識を持ちながら、今後も定期的に防災訓練を行います。

右下の写真は助燃バーナの方から燃焼室内部を見たものです。階段状になっている部分がストーカで、この上でごみが燃えます。ごみの燃焼温度は900℃前後の高温となり、ストーカもすぐに劣化するため、劣化を遅らせるよう空気を送り込

で冷却しながら運転しています（空冷式）。今回、水を循環させる水冷式に改良することによりストーカの温度をより低くすることが可能になり、空冷式よりも約4倍長持ちします。また、鋳物から鋼板製になるので、修繕しやすくなります。



燃焼室内部

○の部分サイドウォールプレートです。ストーカは前後に動いてごみを奥へ（写真手前へ）送りこんでいきます。このため少しずつ摩耗していきりますが、同時に壁も摩耗します。この工事では、プレートを摩耗しにくい材質のものに改良します。